

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2296900083 | | |
| 法人名 | 株式会社 健康第一調剤薬局 | | |
| 事業所名 | グループホーム こもれび つつじ | | |
| 所在地 | 磐田市二之宮東21-4 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 | | |
| 所在地 | 静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 平成29年1月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活が送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、平行棒の歩行や手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、絵手紙、生け花、粘土作り、運動会や鍋、カレー作り、外出では、ファミレスや回転ずしに行ったり、桜、つつじ、バラ、紫陽花、コスモスを観に出掛け季節感を感じたり、楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

土日となればほぼ全員の家族面会があるほどで、調査訪問日も「ちょっと顔を見に来ました～」との家族にさり気なく職員が椅子を用意しての様子から、関係構築が出来ていることが確認できます。運動会にはチラシに小さく「ご家族もどうぞ～」と入れただけだったのに、当日は参観会さながらに集ってくださり、仮装の職員とともに盛り上がり、どの行事も本人、家族、職員と笑顔に結ばれています。また家族に毎月届ける「こもれび通信」もその人だけのカラー写真が4～5枚入り、本人の表情とともにその月の暮らし向きがわかる秀逸なもので、各職員が得意な点をよりよく連携していることが観えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念を施設内に掲示している。研修会では、コミュニケーションの技術について学び、利用者との関わりについてスキルアップを図っている。 | 管理者から方針について話すことは間々あり間接的に伝わってはいるものの、理念について時間をとることは余りないのが実情です。ただし、月行事を競ったり、特大サイズのかかるたをつくって鉢巻姿の職員が大きな声を出している様子からは浸透が覗えます。 | 浸透を客観的に測れ、またそれが職員の有用感につながる仕組みがあるとなお良いと思います。例. 目標設定、社長賞等 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 夏祭りには、沢山の家族に参加してもらった。秋祭りには、屋台が施設内に入り、子供達の踊りを観たり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。 | チラシに小さく「ご家族もどうぞ～」と入れただけでも参観会さながらに集ってくださり、仮装の職員とともに盛り上げた運動会の日もあります。例えば「3月の母狩りは交渉のうえサービス価格にしてもらえた」など、地域交流に職員が尽力するのが日常的にみられます。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。12月4日防災訓練で、磐田市より初めて福祉避難所として開設してほしいと要請があり、了解し、地域の方や介護のある方を受け入れた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回、自治会長1名、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。運営推進会議で出た意見を、業務に活かしている。 | 行政、地域、家族をメンバーとして、隔月で併設事業所と合同開催しています。家族は「次回お願いします」と言えば大抵都合をつけてくれ、1名の出席が必ずあります。 | 運営状況の報告を兼ねた集まりでもあるため、平均年齢や介護度とともに事故報告や事例発表もあるとなお良いと思います。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市や包括の方には運営推進会議に出席してもらい、グループホームの実情を報告している。毎月市には入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。初めての実施指導があり結果は指導なしと評価してもらった。毎月介護相談員の訪問もある | 市役所からは運営推進会議に毎回足を運んでもらえており、介護相談員も毎月1回訪れ、事業所も事業所連絡会(ほぼ月1回)や集団指導、市主宰の研修会にも積極的に出向いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を行っている。転倒のあった利用者には、家族に説明しセンサーを設置したり、鈴を付けている。2ユニットが自由に行き来出来る。 | 職員は基本的な知識は周知しており、年間研修にも本件は位置付けていますが、エレベーターは以前のヒヤリハットの経験から現在は暗証番号での稼働となっています。夜間は2ユニットの通用口を開放して、職員間で注視しあうとともに、助け合う態勢をつくっています。 | 念のため一時性、切迫性、代替性の書面用意を期待します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設で勉強会を開き、高齢者虐待防止関連法について学んだり、外部の研修に参加したり、施設全体で虐待の防止に努めている。利用者が入浴時は観察し、内出血や傷に注意している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時、職員から家族に近況を報告し、家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。 | 土日となればほぼ全員の家族面会があるほどで、調査訪問日も「ちょっと顔を見に来ました～」との家族にさりげなく職員が椅子を用意しての様子から、関係構築が出来ていることが確認できます。折々に「リハビリを～」「名札が～」と意見も挙がっていて、順次改善向上させています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。職員は申し送り時に伝えたり、主任に意見を伝え、主任から管理者に相談する事もある。 | 行事があれば職員配置を手厚くする運営側の下支えもあり、日常のレクリエーション、月行事において「奔走する」「精一杯」は恒常的なこととして職員のなかに根付き、意見発言も活発です。また、主任を中心にボトムアップの流れも自然に成されています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がなるべくないようにしている。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内では、研修を毎月行っている。新人には、2か月間指導しながらトレーニングを行っている。法人外では、地域の勉強会に参加できる機会の確保に努めている。認知症実践者研修を受けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の機関での研修に参加し、サービスの向上を目指している。市の事業者連絡会に出席している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員中心ではなく、利用者が暮らしやすく安心できる場になるように支援している。認知症があっても年長者の発してくれる言葉に注意して、否定しないようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染めの方が面会にみえた時は、笑顔で挨拶し、今後も面会に来て頂けるように心がけている。使い慣れた道具や思い出の品を持ち込んでいる。自宅に帰ったり、お祭りを見学している。外出、外泊、面会は自由。 | 面会時間は20時までと制限はあるものの毎日のように訪れる家族や、友人訪問もあり、お茶を出して歓迎を伝えています。居室で小一時間過ごすのが一般的ですが、「ちょっと散歩に〜」「自宅へ〜」と連れだって出かけることもあります。書簡のやりとりをしたり、携帯電話を持つ人もいます | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子もある。話が少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 夫婦で入居された家族とは、1人退去されたが、その時の対応が良かったと感謝され信頼関係を深めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は日常会話やトイレ、入浴介助など1体1の対応時本人が想いや希望を話してくるのので聞いて取り入れている。定期的に、介護計画書を作成前に本人の要望を聞き、職員間で話し合っている。家族からも情報収集をしている。 | 「～がない」「帰りたい」といった不安には速やかに対応して、寄り添うことを旨としています。ご飯を盛ったり、新聞を読んだり、書道を続けたり、洗濯干しと、以前おこなっていたことは続けてもらえるよう支援することで、本人のやりがいに繋がっています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族からも情報収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの体調や体力に合わせて臥床、離床、運度したり、バイタル測定したりし、管理している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋がっている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。 | サービス担当者会議では介護支援専門員を中心に話し合い、介護計画モニタリング表に落とし込み、介護計画書に反映させています。また、変化は申し送りですぐ挙がっていて、現状に即した対応がおこなわれています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | さまざまなニーズに対して、職員間でカンファレンスを行い、新しい対応を考え取り組んでいる。体調が悪い時は、頻回にバイタル測定をし対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事(お祭り、マラソンなど)応援したり、ボランティアの方に来訪してもらったりしている。近くの神社の初詣や、つつじ公園、紫陽花寺に行かせてもらったり、農業高校のバラ園を見学させてもらったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、夜間24時間対応できる体制を確保しているので体調が悪い時は、連絡し対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼し仕事をしている。 | 月1度訪問診療のある協力医に全員変更しています。車いすでも自身での移乗ができる人ばかりということもあり、眼科などの専門医には家族に通院介助をお願いして、必要な情報はメモで渡しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。看護師がいるので浣腸、在宅酸素、バルン留置など医療行為ができています。看護師は協力医と連携をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した時は訪問し、医師、相談員、看護師、理学療法士などに状況を聞き、今後の方向性について話し合いをしている。病院の地域連携室の相談員の訪問を受け入れ関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話し合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。 | 契約時に家族に「看取りをおこなえる事業所である」ことを説明し、合意書も交わしています。管理者が看護師であり、ある程度の病でも受け入れることができるためか、今年度も1名看取り、開設から2年目で2名をお見送りしています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師が職員に応急手当や初期対応の勉強を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し避難訓練を行った。9月には、地元の防災訓練に管理者が参加した。12月には、磐田市の防災訓練に福祉避難所として参加し外部の方を受け入れる開設訓練を行った。 | 消防者指導の下、階段避難も含み年2回実践的に取組んでいます。また今年度から福祉避難所として磐田市から指定を受け、災害弱者といわれる住民に支援できるよう、言葉がけをはじめ一つひとつ学んでいます。循環式の1万4千ℓもの貯水タンクが備わっていることは安心の一つです。 | 今後は夜間想定、災害伝言ダイヤルの実施を期待します。 |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 失礼します等目上の方に対する言葉や、丁寧な言葉かけを実践している。排泄面では、プライドを傷つけないように、トイレ介助に付く人や付かない人と分けて、慎重に対応している。 | 居室前の氏名については家族から「フルネームでいいよ」「ミドルネームのみ」と回答を得る一方で、本人の好きなものや趣味を写真やイラストで掲示してあることは本人が一目で自室とわかるほか、その人らしさへの想いが滲みます。 | 面会名簿は現在ノート式ですが、家族希望もあるためカード式への移行について一度検討してみることを期待します。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や、運動を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースで休憩したり、テレビを見たりし自由に過ごしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 男性は、髭の手入れをし、女性は、手が上がらない人には、髪を束ねる支援をしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る利用者には、毎日給仕を手伝ってもらっている。利用者全員でゼリーやホットケーキなどおやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそばなど)忘年会で鍋パーティー食べたり、回転寿司、ファミリーレストランに出掛ける事もある。 | 厨房が別にあり、刻みやトロミ、減塩のほか栄養面に専門性が発揮された献立が提供されています。テレビを消して利用者の号令で始まり、「ピンク、黄色、緑できれい〜」「ニンニクの臭いがするね〜」とメニューを話材に声掛けもあり、和やかな食事風景です。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつの摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事量が少ない時は、声掛けをしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れていったりしている。 | 家族では生活のコントロールができず、症状が進んでしまっの入所の利用者は、規則正しい食事とトイレでの行為を取り戻すことで、パッドから布パンツに向上した例もあります。夜間はコールで職員を呼び出している人、センサーの人もあります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。 | つつじユニットには椅子式の機械浴が配され、利用者だけでなく職員の負担軽減に役立っています。MYシャンプー、ボディソープも用意されていますが、皮膚への配慮から浴剤使用はありません。拒否の人には人を替えたり、日や順番を替えて、何とか入ってもらえています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳み、食事の給仕など役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。家族に嗜好品を持ってきてもらう事もある。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者に希望を聞いて、初詣に神社、ショッピングに店、花を観に公園、食事にファミレスや回転ずしなど出掛けている。家族と自宅に帰ったり、ショッピングや旅行に行ったりして気分転換を図っている方もいる。 | 「いちご狩り～」「イルミネーション～」と利用者が言ったことは小さなことでも拾って実現させ、体調や身体の具合から全員で出かけることは難しいとしつつも見付天神の初詣をはじめ、年数回は実施しています。ユニット、個別ならば月1回～はあり、散歩も随時おこなっています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に絵手紙や年賀状を出せるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。 | 各所に付いた手すりをつかっただけの歩行訓練や広いリビングでの体操など、ゆったりとしたスペースを活かしたプログラムが実施できる空間です。次亜塩素酸で朝夕1日2回拭き掃除を必ずおこない、整理整頓も行き届いています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。又、フロアのテーブルは空間を持って配置しており、自由に移動できる。ソファで談笑する事もある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には長く使い慣れた椅子やテーブル、姿見、などがあり、思いでの家族の写真や品物が飾ってある。利用者が作ったレースのテーブルクロスを飾っている方もいる。 | テレビや固定電話が置かれた部屋もありますが、大きな持ち込みはあまりなく、予め備わったベッド、洗面台、カーテン、エアコンに、持参したプラスチックの衣類ケースという形態が大半です。「これまで通りに～」との家族希望で畳を入れている人もいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2296900083 | | |
| 法人名 | 株式会社 健康第一調剤薬局 | | |
| 事業所名 | グループホーム こもれび くすのき | | |
| 所在地 | 磐田市二之宮東21-4 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 平成29年1月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活が送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、平行棒の歩行や手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、絵手紙、生け花、粘土作り、運動会や鍋、カレー作り、外出では、ファミレスや回転ずしに行ったり、桜、つじ、バラ、紫陽花、コスモスを観に出掛け季節感を感じたり、楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

土日となればほぼ全員の家族面会があるほどで、調査訪問日も「ちょっと顔を見に来ました～」との家族にさりげなく職員が椅子を用意しての様子から、関係構築が出来ていることが確認できます。運動会にはチラシに小さく「ご家族もどうぞ～」と入れただけだったのに、当日は参観会さながらに集ってくださり、仮装の職員とともに盛り上がり、どの行事も本人、家族、職員と笑顔に結ばれています。また家族に毎月届ける「こもれび通信」もその人だけのカラー写真が4～5枚入り、本人の表情とともにその月の暮らし向きがわかる秀逸なもので、各職員が得意な点をよりよく連携していることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念を施設内に掲示している。研修会では、コミュニケーションの技術について学び、利用者と職員の関わりについてスキルアップを図っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭りには、沢山の家族に参加してもらった。秋祭りには、屋台が施設内に入り、子供達の踊りを観たり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。12月4日防災訓練で、磐田市より初めて福祉避難所として開設してほしいと要請があり、了解し、地域の方や介護のある方を受け入れた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回、自治会長1名、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。運営推進会議で出た意見を、業務に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市や包括の方には運営推進会議に出席してもらい、グループホームの実情を報告している。毎月市には入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。初めての実施指導があり結果は指導なしと評価してもらった。毎月介護相談員の訪問もある | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を行っている。転倒のあった利用者には、家族に説明しセンサーを設置したり、鈴を付けている。2ユニットが自由に行き来出来る。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設で勉強会を開き、高齢者虐待防止関連法について学んだり、外部の研修に参加したり、施設全体で虐待の防止に努めている。利用者が入浴時は観察し、内出血や傷に注意している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時、職員から家族に近況を報告し、家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。職員は申し送り時に伝えたり、主任に意見を伝え、主任から管理者に相談する事もある。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がなるべくないようにしている。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内では、研修を毎月行っている。新人には、2か月間指導しながらトレーニングを行っている。法人外では、地域の勉強会に参加できる機会の確保に努めている。認知症実践者研修を受けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の機関での研修に参加し、サービスの向上を目指している。市の事業者連絡会に出席している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言って頂ける信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員中心ではなく、利用者が暮らしやすく安心できる場になるように支援している。認知症があっても年長者の発してくれる言葉に注意して、否定しないようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染めの方が面会にみえた時は、笑顔で挨拶し、今後も面会に来て頂けるように心がけている。使い慣れた道具や思い出の品を持ち込んでいる。自宅に帰ったり、お祭りを見学している。外出、外泊、面会は自由。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 淋しがり屋の方は仲の良い方と一緒にいるようにし、認知症で興奮し大声を出す方は皆さんの所から席を一時離すようにし、他の方が不安にならないように配慮している。トラブルがある時は職員間でカンファレンスをして席を考えている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 認知症が良くなり自宅に戻られた方の様子は、ケアマネを通じて聞く事はあるが、本人との関係は繋がっていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は日常会話やトイレ、入浴介助など1体1の対応時本人が思いや希望を話してくるので聞いて取り入れている。定期的に、介護計画書を作成前に本人の要望を聞き、職員間で話し合っている。家族からも情報収集をしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族からも情報収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの体調や体力に合わせて臥床、離床、運度したり、バイタル測定したりし、管理している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | さまざまなニーズに対して、職員間でカンファレンスを行い、新しい対応を考え取り組んでいる。体調が悪い時は、頻回にバイタル測定をし対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事(お祭り、マラソンなど)応援したり、ボランティアの方に来訪してもらったりしている。近くの神社の初詣や、つつじ公園、紫陽花寺に行かせてもらったり、農業高校のバラ園を見学させてもらったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 1名持病があり今まで通院していた医療機関に継続している。他の医療機関で継続している方も協力医に2~3か月毎に往診してもらい状態を把握してもらっている。協力医は、休日、夜間など24時間対応できる体制を確保している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので浣腸など医療行為がいつでもできている。看護師は協力医と連携をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 今までに入院した方はいない。病院には、グループホームの空き状況を毎月報告している。病院から受け入れできるか情報をもらい連携をとっている。毎月病院に通院している方は、毎日のバイタルをコピーしてもらっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 今までに重度化や終末期の方はいない。入居する時に、家族に延命措置は望みますかと聞いており、急変時の対応に備えている。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師が職員に応急手当や初期対応の勉強を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し避難訓練を行った。9月には、地元の防災訓練に管理者が参加した。12月には、磐田市の防災訓練に福祉避難所として参加し外部の方を受け入れる開設訓練を行った。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 失礼します等目上の方に対する言葉や、丁寧な言葉かけを実践している。排泄面では、プライドを傷つけないように、トイレ介助に付く人や付かない人と分けて、慎重に対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や、運動を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースで休憩したり、テレビを見たりし自由に過ごしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 男性は、髭の手入れをし、女性は、手が上がらない人には、髪を束ねる支援をしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る利用者には、毎日給仕を手伝ってもらっている。利用者全員でゼリーやホットケーキなどおやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそばなど)忘年会で鍋パーティー食べたり、回転寿司、ファミリーレストランに出掛ける事もある。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつの摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事量が少ない時は、声掛けをしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れていったり、立位が困難な方で毎日3回トイレに座らせている方もいる。尿意があり、紙パンツから布パンツに変えようとしている方もいる。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | おむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳みなど役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。家族に嗜好品を持ってきてもらう事もある。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者に希望を聞いて、初詣に神社、ショッピングに店、花を観に公園、食事にファミレスや回転ずしなど出掛けている。家族と自宅に帰ったり、ショッピングや旅行に行ったりして気分転換を図っている方もいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に絵手紙や年賀状を出せるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。又、フロアのテーブルは空間を持って配置しており、自由に移動できる。ソファで談笑する事もある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れたタンス、マッサージ機などがあり、思いでの家族の写真、品物が飾ってある。畳みを入れて、自宅と同じように布団で寝起きしている方もいる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。 | | |